

ベンガルファンにおけるアクティブチャネル堆積物と海水準変動

Active channel sediments in the Bengal Submarine Fan related to sea-level changes

村山 雅史[1], 徳山 英一[2]

Masafumi MURAYAMA[1], Hidekazu Tokuyama[2]

[1] 高知大・海洋コア, [2] 東大・海洋研

[1] Marine Core, Kochi Univ., [2] ORI, Univ. Tokyo

アクティブチャネルの形成発達史を明らかにすることを目的として、ベンガル海底扇状地において海底地形調査と堆積物の採取を行った。特に、気候変動に伴う海水準変動とチャネル発達史は密接に関係しており、後背地から運搬される碎屑物の供給メカニズムを理解することは地球表層の物質循環を考える上でも極めて重要である。今回の調査では、中～下部扇状地のチャネル周辺で行った高精度マッピングによる地形調査と柱状堆積物解析の二側面から、海底扇状地における堆積環境及び後背地の碎屑物の供給に関する考察を行う。主に、チャネルの形状変化とチャネル レビー堆積物の組成変化について検討した。

アクティブチャネルの形成発達史を明らかにすることを目的として、ベンガル海底扇状地において海底地形調査と堆積物の採取を行った。特に、気候変動に伴う海水準変動とチャネル発達史は密接に関係しており、後背地から運搬される碎屑物の供給メカニズムを理解することは地球表層の物質循環を考える上でも極めて重要である。今回の調査では、中～下部扇状地のチャネル周辺で行った高精度マッピングによる地形調査と柱状堆積物解析の二側面から、海底扇状地における堆積環境及び後背地の碎屑物の供給に関する考察を行う。主に、チャネルの形状変化とチャネル レビー堆積物の組成変化について検討した。